

障がい当事者部会 報告書

会議名	第1回 障がい当事者部会		
開催日時	令和7年8月1日（金）14時00分～15時30分		
開催場所	板橋区役所 北館9階 大会議室A		
出席者数	8名（欠席1名）	傍聴者数	2名

報告事項（2件）

議題名	第9期障がい当事者部会の活動報告について		
概要	自立支援協議会における、障がい当事者部会の設置目的、役割を説明。 第9期（令和6～7年度）の当事者部会で取り組んだ「ライフステージごとの支援に関する年表作成」の概要説明、進捗状況の報告を行った。		
主な意見	特になし		

議題名	第10期障がい当事者部会の活動計画について		
概要	「知る」「考える」「伝える」の3つの事務をベースとし、 （1）地域生活支援拠点等の整備における、当事者や家族視点での課題抽出・検討 （2）他部会と連携した地域課題の抽出・検討 （3）各部会からの協議事項に対して、当事者や家族に意見を聞く場 という3つの事項を協議していくことを説明。 特に（2）については、「ライフステージごとの支援に関する年表作成」をはじめ、相談支援部会や障がい児部会と連携を密にし、当事者とその家族の目線で、課題解決に取り組んでいく。 ライフステージごとの支援に関する年表は、第10期の自立支援協議会に議題として挙げ、意見を募ることも検討していく。		
主な意見	特になし		

協議事項（1件）

議題名	ライフステージごとの支援に関する年表作成について		
概要	第9期から取り組んできた「ライフステージごとの支援に関する年表」について、事務局の方で用語の統一、微修正を加えたものを部会で提示。年表をブラッシュアップしていくために意見を募った。		
主な意見	・年表の「社会参加」欄について、記載されている内容を見たときに、選択肢が限定されているように感じた。 ・精神障がいとは大体が中途障がいである。そのため、幼児期、少年期、青年期などの分類だと分けづらい。 ・視覚と聴覚の重複障がいの場合は、どのように年表に反映させていけばいいのか。 ・発達障がいについては、支援員との関係性を築くのに時間がかかる。その支援員が辞		

	めてしまうと、新しい支援員と関係性を築くのにもまた時間がかかってしまう。そのため、ライフステージ年表を通して、親に早い段階で相談できる窓口を知ってもらうことが大事だと思う。 ・各種手当は申請しなければ受けることができない。「何歳までに何をすればいいのか」が分かることは親の目線から見るととても助かる。 ・障がい当事者や親が、ライフステージの年表を見て、将来に希望を持つことができると思う。また、障がいがあっても選択肢があるということを年表で知ってほしい。 ・現在障がいは多様化しており、知的障がいでも「境界知能」という言葉もあり、軽度から重度まで多様なケースがある。 ・何枚にも増えてしまうと、情報量が多く、見る側が困ってしまう。基準を決め、見やすい表に仕上げる必要がある。 ・年表を見ていると総合的な相談窓口が載っていないように見受けられる。また、誰が主体の相談なのかで見方が変わってくる。当事者、親それぞれの視点を考えた表にした方がよい。
今後の方向性	部会員からの意見を踏まえ、事務局としての年表の方向性を検討し、相談支援部会や障がい児部会と連携しつつ、引き続き年表のブラッシュアップに努める。